

22. $^{99m}\text{TcO}_4^-$ および ^{67}Ga -citrate シンチグラフィ併用による
唾液腺腫瘍質的診断向上の可能性 山田 有則他 1423
23. 炎症組織での FDG 集積 山田 進他 1424
24. $^{99m}\text{Tc-GSA}$ 肝クリアランスとコンパートメントモデルパラメータとの関連
——simulation による検討—— 秀毛 範至他 1424
25. 正常成人例における $^{99m}\text{Tc-GSA}$ 肝シンチグラフィでの肝血流評価 加藤千恵次他 1424
26. 小児例における $^{99m}\text{Tc-GSA}$ 肝シンチグラフィでの肝血流評価 加藤千恵次他 1424
27. 肝の Focal Nodular Hyperplasia の 1 例 —— $^{99m}\text{Tc-GSA}$ 肝シンチグラフィ
による検討—— 望月 孝史他 1425
28. 標識長鎖脂肪酸(BMIPP)経腸的投与後の健常成人における
シンチグラム 丸岡 伸他 1425

一般演題

1. IMP-SPECT が有用であった、軽微な外傷を契機として生じたと考えられる内頸動脈スパスムの 1 症例

黒川 博之 (仙北組合総合病院・放)
大石 光 三浦 俊一 佐々木順孝
(同・脳外)
五十嵐希世志 (同・小児)

患者は 5 歳の女児で 1994 年 6 月、三輪車から転倒し頭部を打撲した。約 24 時間後に右の上下肢不全麻痺、等で入院した。CT では異常なかったが症状は進行し、頭部血管造影で左の内頸動脈のサイフォン部の狭窄がみられた。毛細管相以後の造影は対側大脳半球に比較してやや不良である程度だったが、IMP-SPECT では著明な左大脳半球の血流低下を示し、MRI では T2 強調画像で左の放線冠その他の白質の高信号を示した。臨床症状の改善とともに SPECT の血流の状態も改善した。診断、臨床経過の把握に IMP-SPECT が症状をよく反映しきわめて有用であった。

2. 脳挫傷の脳血流 SPECT

石井 清	木下 俊文
(仙台市立病院・放)	
椎名 巖造	小沼 武英
伊藤 浩	福田 寛
(東北大・加齢研機能画像)	
亀山 元信	(同・救急医学)

急性期脳挫傷 47 症例の脳血流 SPECT を検討した。

1. SPECT 上の低灌流域と MRI-T2 異常信号域の大きさの比較では、SPECT と MRI が同じもの 27 例、SPECT の方が大きいもの 15 例、MRI が大きいもの 5 例であった。

2. SPECT が 3 回以上施行された 13 例では、低灌流域が、①2-3 週に拡大しその後縮小したもの 5 例、②2-3 週に縮小しその後拡大したもの 5 例、③経過観察で変化ないもの 3 例、であった。

3. 急性期の rCBF は、挫傷部位のみ低下したものが 10 例、びまん性に低下したものが 7 例であった。rCBF と予後の間の相関は明らかではなかった。